

日七十月一

# 常警每日新聞

定額一冊五錢 一月五拾五錢 郵費五錢  
 廣告料五錢 二字拾一行金五拾錢  
 日曜祭日の翌日休刊  
 發行所 常警毎日新聞社  
 電話 六〇二〇  
 印刷所 常警毎日新聞株式會社

## 無功德の宗教

真繼 雲山

(二)

これから達磨は崇山小林寺に入つて面壁九年に取りかゝつた、但し佛法が面壁九年にありや否やは別の問題で、語を換ゆれば、壁の前にあり武帝の逝いた獄中にもある、迷ひを掃ふたところなら何處にでも悟りはある。左れば悟りの道行としては、迷ひなくんば悟りなく迷ひは悟りの種である、煩惱ある故に菩提あり煩惱こそは正覺の種子である。同泰寺を焼け出された武帝が『必定これは惡魔の所爲』と睨み据えて勇奮再起、舊に倍する大工事を興しかゝつたところまでは大出来であつたが、惜しいかな彼れは身帝位にありて、惡魔を常に對岸に見た、未だ悟りの山に入らず、始終ともに里から里へと迷ひてゐた、若し彼れにして己が心内に降魔を發見してゐたならば、又必ずや降魔を退治するの日ありしなるべく降魔を退治し得ば、そこに成道がある、降魔なくんば成道の曉は訪れない、而かも降魔も佛も心外の別のものではなく、第一義諦には二者俱になし、これを聖

位皆空といふのである、皆空のところ何の功德の論すべきあらんやである、惜むべし武帝には未だその智眼が開けてゐなかつたらしい三世因果を考へ、功德を願求するのは一種の巧利思想であつて、そのやうな世界に佛法の眞骨頭はない。己

## ノット

足袋は厚いほつ足の形がよい

いものです、洒落れた人は夏でも裏もんばを履きますが、寸法がきつちりして居ると同時に履いて形がよろしうございます

れの受くべき功德あらば擧げてこれを衆生濟度のために廻向するといふ不悔忍辱の態度こそ佛とは申す、無功德の三字こそは大乗の極則、大悟の全露呈でなく

## 二明日の献立

【朝】みそ汁—もみ豆腐

【晝】揚げだし—鮮魚、玉ねぎ

【晚】ふくめ煮—竹輪、椎茸

てはならない、カラリとしてゐるのは秋空一碧の状であり、それが永遠不亡の實相である、人間は名利や生死に頓着する故にカラリとせぬので、然らばカラリと

したいかといふに矢はり生死の巷にゴテ／＼としてゐたいのである、ゴテ／＼を望んでカラリをいやるのは、何者の仕掛でもない、煩惱の所爲である、佛法の極意は、その煩惱の妄想を掃へよと教へる、妄想を掃ふたところか生死因果を抜け出た境地で、これを解脱も廓然無聖ともいふのである、無聖が聖位でそれが悟りの頂邊である、佛位といふのは、それから山を下り里に出て人間世界を救ふことである。



## 常警歌壇

### 凱旋の日

雲水 峰

戦塵を洗ひ落して誰も彼も話しかはさむ知る人にして朝夕に祈れる母の甲斐ありて今日のよき日に會ふぞうれしき

しのぶれと色にや出てぬと思ひわぶ今日のよき日も我が子かへらす  
 旗見れば干々に心の亂れ行く來るべき人の來ぬと知りせば  
 稚兒も振る今日のよき日の旗色はみ國愛せし人をよろこぶ

## 外科 X 光線科

性病科 外科

安齊外科醫院

平町田町 電話四七五番

## 久山團扇店

又々ウチワ豫約期が來ました  
 本年のウチワ・扇子は諸掛のかゝる外來品より、注文に追加に萬事便利にて、製品及價格に自信のある山久へ！是非一度御用命を……

山久團扇店  
 前局町屋紺平  
 番九〇四(呼)話電  
 庫在富豐器子硝壘子菓  
 一タスポ・一ダンレカ

## 太平生命外務社員募集

身体強健 眞面目な奮闘家を求む  
 入社希望者は左記に申出でられたし

平町二丁目地球堂内  
 太平生命保險株式會社

## 破魔弓と羽子板を

陳列致しました  
 御子さまの御祝から

三十二年の不景氣魔を破り？  
 三十三年の景氣を羽根上ぐる？

○是非御子様の御祝盛に致しませう

スガノヤ提灯店  
 平四丁目(電話九五番)

## 吉田眼科病院

平紺屋町、電話六八番

## 耳鼻科専門

入院 應需

平町田町七〇番地  
 山内醫院  
 醫學士 山内亨吉  
 電話六九一

## 高久病院

院長 醫學士 高久 忠  
 副院長 新潟醫學士 赤羽 清  
 藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科  
 耳鼻咽喉科 レントゲン科

平町田町 電話五一三番

## 金銀高價買入

質札は(金時計鎖指輪類)有利に御相談致します

平町二丁目(三幸堂跡)

根本時計店  
 電話六〇七番

## 根本時計店

電話六〇七番

## 中村齒科醫院

平町 鍛冶町七

# 新川の櫻を

## 内務省の保護植物に

### 酒井保存會長が手續を準備

「花の新川の土堤を……」と唄はれる日露戦捷を記念する平町新川兩岸の櫻樹も今度の改修に櫻樹保存會長酒井國三郎氏の奔走に依つて取拂へを免かれ夫々大切に移植された爲め反つて以前に増す美觀を添える事になつたので郡山開盛山の櫻が内務省の保護植物となつて居るに鑑み新川の櫻も是非同様の取扱ひを受けねばならぬと酒井會長は目下内務省に對する手續を準備中であると

## 失業救済に

### 平の新工事

#### 更らに二ヶ所許可

平第三小學校裏道路幅員三間延長四百間の新設及び古川護岸延長百九十間の工事は土木匠救事業として此程縣よりの許可指令あり目下の新川堤改修工事終了後直ちに着手される筈であるが前者は一萬圓後者は一萬五千圓の工費であるから失業勞働者は此の方面で引續き救済される事になると

## 學童の

### 貯金高

#### 平第一校調べ

平第一小學校に於ける全校兒童千五百名の現在貯金高は一萬五千八百八十圓

平商業學校にては舊正月二日の大賣出しも迫つたので例年の如く各商店より生徒の手傳ひ方申込が毎日の様に多數來るが合憎當日は軍事教練の査閱が行れるので遺憾ながら本年は申込に

總會を開き昨年度事業報告並に本年度豫算其他に就き協議を行つた  
十五丁目道路  
役場に引渡す  
平町では昨年十月初旬より十五丁目仲町地内の道路改修工事を工費千三百圓で平町工業商會に請負はしめたが去る十五日全工事の竣工を見たので本日町役場に引渡しを了した

## 繭高値を豫想し 掃立増加の計劃

勿來町で出荷組合を起し  
兵庫縣の優良蠶種配給

石城郡勿來繭市場では今春の繭高値を豫想し此程共同出荷組合を組織し兵庫縣松田蠶種所より優良蠶種を多數購入し一グラム五十錢内外にて組合員に配給掃立増加を計畫中であるが同市場昨年度の取扱數一萬貫を倍加すべく意氣込んで居ると

磐中寒稽古 磐城中出場四百名  
學校に於ける柔剣道の寒稽古は去る十二日より開始以來毎朝生徒四百名以上の出場者あり頗る好成績を示して居るが一般參觀者は一人もない

## 實業公民學校の 欠席者多く休校

舊年來の多忙時だけ

平實業公民學校にては生徒が各商店の徒弟である爲め舊年末に多忙を極め毎夜欠席者が多いので来る二十三日より一週間休校する事になつた

有功賞を交付  
石城郡豊間村長鈴木藤次郎氏は多年愛國婦人會の各種事業に盡力した功に依り此程有功賞を交付された

長橋區長代理 平町第一區長橋新町では區長

功賞を交付された

## 漁村荒廢視察

石城郡四倉・江名・豊間等各漁村の山林荒廢地及び海岸砂防工事視察の爲め農林省矢島、樋口兩技師は昨日本縣谷村技手の案内で來平した

## 豊間村で 御下賜金傳達

石城郡豊間村では過般の暴風雨被害者に御下賜になつた御救恤金の傳達式を昨十六日同村公會堂にて行つたが尙當日平町其他よりの義捐金も夫々被害者に贈與した

## 堂々たる 隔離病舎

植田に建設中  
石城郡植田町では舊臘初旬より工費六千三百餘圓にて同町江畑地内に傳染病隔離病舎を起したが同病舎は三棟百三十六坪地方町村の隔離病舎としては稀れに見る堂々たる建物で本月下旬には竣工すると

## 平町人事

- 回出生  
△仲町三 松本巳之次氏三男昭三
- 回死亡  
△田町五 鎌田ハナ(三三三) 四五丁目二二 志賀友吉(四一)  
△材木町三四 藤田正雄(一八)  
△立町一〇一 佐藤サツ(六七)

## たしの素景品付賣出し

美味で經濟な液体たしの素は臺所を預る奥様や娘様方には是非御使用を御願いたしますと満足します  
京一だしの素 四合瓶一本 四十五錢  
二合瓶二本 五十錢  
尙紀念として京一醬油一升御買上毎に景品券を差上げます  
特等腕時計 一等醬油六ヶ月間進呈又萬年筆 二等醬油三ヶ月間進呈又ハンシャープペンシル 三等ダシノ素大瓶一本 四等ダシノ素小瓶一本 五等石輪割箸マツチノ内一ヶ全部空籤ナシ  
期間 十二月十五日ヨリ二月十五日マデ  
發表 二月二十日  
新川町新藤屋隣 京一醬油直賣所

## 江戸前料理會堂

御祝儀 御法事の御料理  
多少に拘らず出前致します  
▼出前! 迅速! ▲  
錦水  
電話四五四番



## 旭硝子株式會社製品 板ガラス

- 赤蔭印
- 菓子 壘
- 菓子 食器
- 其他 各種

## 松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)  
仙臺市榮町(電話五九七番)  
◇支工場

## 太平生命外務社員募集

身体強健 眞面目な奮闘家を求む  
入社希望者は左記に申出でられたし  
平町二丁目地球堂内  
太平生命保險株式會社  
旭城方部事務所

# 夫婦者の口論は？

## 無理情死の眞最中

### 驚いた鑛泉宿の女中が

### 飛び込んで劇薬を奪ふ

石城郡鑛泉村字下湯屋鑛泉宿の湯方へ昨十六日石城郡内郷村大字宮字平太郎指物師鈴木明三(三六)妻キヨ子(三三)と稱して投宿した男女あり同日午後一時頃兩名で盛んに口論を始めたので同家の女中が不審に思ひ客間を覗くと男が無理にカルモチンを女に嘸まして情死を遂げんとする模様なので驚いて室の中に飛び入りカルモチンを奪つて未遂に終らしたが届出により平署で兩名を取調中である

## 卒業生が

### 各種見學

平第二小學校にては来る三月卒業する高等科百七十名及び尋常科百八十六名に對し今月末より順次左の如く見學せしめると

- 平區裁判所、常磐銀行、片倉鑛製糸會社、佐藤鐵工場、平發電所、山崎合名會社、平瓦斯會社、難波製紙工場、四倉セメント會社

## 持主を戀しがる

### 驛の忘れ物

### インフレ景氣でめつきり増えた

インフレ景氣のせいでもあるまいが最近平驛待合室や列車内への忘れ物がメッキリ増え驛係員も『何と〜』と嘆息をもらしてゐる、今年になつてから昨日までの

## 同驛扱ひ

遺忘品は全部で約五十餘点その内持主判明して返却した数は僅か二十点で残り三十餘点は持

主戀しと宙に迷つてゐる、遺忘品の主なるものは季節だけにユリマキ、手袋、ボウシ、カサなどが多く次はマント、フロンキ、煙草入

空辨當等でがま口の忘れ物はタツタ一つ、然し中には大枚六圓五十錢が光つてゐた又自分のコートを忘れるおち着かぬ婦人があ

## 久保町の

### 放火犯に

### 五年の求刑

けふ第一回の公判で平町字久保町二十七番地精米業遠藤忠治(三三)が保険金四千四百圓詐取の目的で隣家の武右常右工門所有の物置と自分の精米所に石油を

かけ放火した事件の公判は本日午前十一時より平支部に於て中島裁判長係り關口竹内兩判事陪席小林檢察立會武田辯護士列席の下に開廷型の如く裁判長の訊問あり被告は犯行の總べてを認め検事の論告に移り被告は居町の有力者にして地元の名譽職を勤めた事あり相當の商人であるに拘らず斯かる大罪を冒すは到底許す事

**明日の天気**  
今晩も明日も北西の風晴れ所により小雪

**今晩の部**  
後六、〇〇 子供の時間  
「史劇 藤戸先陣」KKコドモサークル  
後七、三〇 講演 法學博士松田道一  
後八、〇〇 獨唱と管絃樂  
新交響樂團練習所より中

**明日の部**  
後九、四〇 全國ニッポス氣象通報 番組豫告  
前二、〇〇 料理献立  
「トーナツケーキの拵」方一松本良雄  
前二、三〇 家庭講座  
「正月の俳句」高崎草郎  
後三、〇〇 五俣謠 鈴木錦子外  
後二、〇〇 婦人講座  
「たよりなき少年を救へ」少年審判官鈴木賀一郎  
後四、二〇 大相撲春場所

狀況(六日) 國技館より中繼  
後五、三五 受驗講座  
「國語」内海弘藏  
後六、〇〇 子供の時間  
童話「時計」細川武子  
後七、三〇 講演「建築の風貌」仙臺高工教授小倉強  
後八、〇〇 琵琶「擊滅」豊田靜也  
後八、三〇 新内「身替り座禪」富士松喜遊外  
後八、五五 管絃樂獨唱付「組曲王取物語」寶塚オケストラ獨唱三浦時子

遺忘品は十日毎に一まとめにして平警察署に移管一年立つても持主判明せぬ物を鐵道局に廻送され競賣の上鐵道の雜收入となるのである

遺忘品は十日毎に一まとめにして平警察署に移管一年立つても持主判明せぬ物を鐵道局に廻送され競賣の上鐵道の雜收入となるのである

遺忘品は十日毎に一まとめにして平警察署に移管一年立つても持主判明せぬ物を鐵道局に廻送され競賣の上鐵道の雜收入となるのである

遺忘品は十日毎に一まとめにして平警察署に移管一年立つても持主判明せぬ物を鐵道局に廻送され競賣の上鐵道の雜收入となるのである

## 片倉製糸が

### 永年勤続者を表彰

片倉鑛製糸株式會社にては来る二十五日より二週間舊曆正月に付休業し三百餘名の男女工を夫々郷里りさせるが之に先立ち来る二十日永年勤続せる男女工の表彰を行ふと因に當日表彰される男女工は次の如くである

- (十五年) 岩村桂次郎(十年) 村上ナチ子 熊谷カトリ 石井タケ(七年) 白石チカヨ 吾妻キクオ 貝沼キチ 白石サクヨ 千葉ミチ子(五年) 跡部キク 藤倉フミノ 松野トメヨ 鈴木ヨノ(三年) 村松ハル子外七十二名

## 濱三郡で

### ナメル鹽

### 一年七百萬斤

鹽專賣局平出張所で昨年中に管内石城、双葉、相馬三郡に配給した數量は七百萬斤で前年より一萬斤の減少を見たが是れは工業漁業方面の需要が減少した爲めであつて鹽の需要は日常生活に欠くべからざる物だけに

他の物貨の如き甚だしい増減は少なく此處數年間には年々七百萬斤を前後して居る

## 警備委員

### 今町會で決定

本日の平町會で決定した消

- △染物下働 三十才 委細
- △面談(平町某)
- △女中 二十五才 高卒 月五圓(平町某)
- △回職を求める方
- △事務員 二十四才 高卒 給料面談(内郷村某)
- △雜夫 二十三才 佑賢卒 給料面談(鹿島村某)
- △爲職 三十三才 尋三修 給料面談(内郷村某)
- △牧場雜夫 二十九才 高卒 給料面談(東京市某)



# 幕末の雄

【禁載上演及映畫】

悟道軒圓玉演  
近藤紫雲畫

第二百四十五席 平手造酒

厚く葬つた吉五郎

勢力富五郎は松の大樹に身を凭せ鐵砲の筒口を咽喉に當て足にて引金を押へたフーツといふトキの聲が揚ると次第々々に登つて来た人数は近づく真先に立つたは飯岡助五郎の許に食客いたし居る因州浪人篠原團平半弓を持つて進んで来た時に勢力は引鐵を引きましたド、イン谷に木魂して響きわたる銃聲同時にバツと立昇る煙、その折篠原團平が切つて放した一筋の矢勢力の胸元へはつしと立つた、屏風をたふすが如くバツタリ打倒れたが両手にてしつかり銃を握りしめてゐるところへドカ／＼と押して来た多勢

團「騒ぐナ、アレ見ろ勢力は自殺して居るぞ、オウ此處に首の無き死骸がある」  
それを聞いて助五郎がそれへ来て見ると勢力は血に染つてたふれて居る、又鳥居前に死骸があつてその首は社の縁に載せてある  
助「他に人は居ねえか尋ねて見ろ」  
と云はれて

○「他に人は見えませぬ」



助「デハ子分と二人だナ、ウンいゝ態だ、しかしおれの爲めには悪魔だが繁藏には忠義者だ、繁はいゝ子分を持つた、マイ勢力、いづれ冥土で會ふであらうが、そのときは勝負してやる、

コレ／＼この社に首があるがこれは勢力の若い者であらう」  
○「ヘエ鑄木の榮助といふ者でござんす」  
助「さうか此彼は忠義者だ二人の死骸を粗末に扱ふナ」  
と人々を制してゐる處へ

八州役人中山誠一郎が部下の目明しと共に参り勢力の死骸を見て  
誠「南無阿彌陀佛々々々々々々々々、天下の掟に背きしゆゑ罰め捕らんとしたしたが、貴様は男の中の男であつたナ、すぐれた氣性を持つて居る、貴様が此處で死せしと聞かば繁藏はその義侠を賞すであらう、助五郎貴様には敵であるが佛になれば最早憎む處もあるまい、懇に葬つて遣はせ」  
助「畏まりました」  
誠「此處に首があるが、之は何者か」

を慰める、尙勢力及び榮助の追福のため貧民に施行いたせ」  
と云ひましたが、これは助五郎に手敷をかけさせ其上入費を使はせる爲、助五郎も驚いたが否とは云へない、そこで勢力と榮助の死骸は一度銚子の陣屋に引取り夫より勢力の遺族に引渡さうとしたが女房は勢力から離縁されて今は小見川の吉五郎と申す者の妻になつてゐる、この吉五郎の事は前回にも申上げて置いたがこれは以前勢力の子分でした、利巧者として博徒の足を洗ひ小見川で鰻屋をしてゐる、それですから勢力にはもう女房はない、又親もない榮助もその通り、それゆゑ助五郎の手で二人は埋葬することにしたものの、繁藏の女房が居る、そこへ送り繁藏の菩提寺へ葬つたがよからうと助五郎が子分を繁藏の未亡人の許へやると笹川にはもう居ない十一屋といふ行燈は出てゐて旅籠屋はしてゐるが代が替つてゐる、何處へ行きましたかと聞くと繁藏の一周忌が終りし後子分と共に此處を立退いたとの事、旅籠屋の株も田畑も金に替へてそれを持つてゐなくなつたと近所の人の話、それでは勢力と榮助の死骸を持つて行く所がない、これを小見川の吉五郎が聞いて女房の實家椿善兵衛に話して二人の死骸を引取つて厚く埋葬いたしました、ところで飯岡の助五郎はその後子分に跡目を

譲り隠居いたして飯岡の妾宅にて悠々晩年を送りました安政の六年四月十四日六十四歳を以て病死いたしました、繁藏や勢力に引替へた人は好運です銚子の神田光臺寺に石碑が遣つて居ります、法號は發信院斷流居士次席よりは千葉周作先生の逸話を申し上げます

平町二丁目  
**三井タシク**  
電話六八五番

看護婦急派の求めに應じます  
平町南町  
**平看護婦會**  
電話三〇七番

豫告中の發賣品は  
**満洲よせなん**  
でした……なべは風味よし味よし○安すし御來客の御馳走に氣うけよし自慢の味と○印を！どぞ御試食下さい  
御一人前 十五錢  
出前迅速  
**せうげん堂**  
電話六三三番

御贈答に!!!  
記念品に!!!  
諸景品に!!!  
漆器を!!!  
誠實勉強 親切第一 在庫豊富  
**共**は  
是非御用命を  
ドコヨリモ、ヨイシナラ、ドコヨリモ、ヤスクウ  
ル、ヌルモノミセ  
平町三丁目北裏(元郵便局裏通り)  
各産産漆器  
専門卸小賣  
**共**漆器店  
店員募集 十三四才位 小 店員  
三十才迄位 外 交員

**銀座 玉屋洋品店**  
平町田町通電話六五六番